ベイシー

MBW -48　　MBW -48H

イナバ物置 組立説明書 -48-

はじめに

このたびは、イナバ物置「ベイシー」をお買い上げくださいまして誠にありがとうございました。
私たちは、この製品の開発にあたって「良いものを安く」をモットーに、苦心して作り上げました。
どうぞ末永くご愛用いただきますようお願い申し上げます。
なお、この製品の組み立て、ご使用にあたっての注意についてご説明いたしますので、かならずお読みください。

MBW -48・48H型 寸法図
（写真は、MBW -48H型です。）

※（　　）内寸法は、MBW－48型を示す。［単位：mm］
【注意】小窓KW－Hは、オプションです。

組み立てにあたっての注意事項

1. 風の強い日の組み立ては避けてください。
2. 30kg以上の梱包や部材の運搬・組立は、2人以上で行ってください。
3. 高さが2mを超えるものの組立には脚立等を使用し、安全確認の上作業してください。
4. 組立中は部材の転倒防止のために、つっかい棒やロープなどをお使いください。
5. 組立途中で放置しないでください。

INB 株式会社 稲葉製作所

■梱包別部品一覧表

●イナバ物置ＭＢＷ-４８型の部品は、１６梱包（ＭＢＷ-４８Ｈは１８梱包）に分けられ下記の部品が入っております。個数と内容をご確認のうえ、組立順序に従って組み立ててください。
●品番が白抜番号の部品には、製造番号が打ってあります。組立の時万一不具合が生じた場合は、必ずその部品の製造番号を確認のうえご連絡ください。

ＭＢＷ-４８型

※下記の部品のほかに、コンクリートブロック６個、半ブロック４個、セメント１０kg、砂１８l、砂利２４l以上を準備してください。

梱包番号 F1-3610

品番	部品名	数
●	部品箱	1
(A)	水準器	1
(B)	スパナ	1
(C)	ネジ板	60+2
(D)	パッキン付ネジ板	42+2
(E)	ボルト	146+4
(F)	ネジ板Ｂ	1
(G)	アンカープレート	4
(H)	ネジ穴ブッシュ	2
(I)	屋根パッキン	5
(J)	ボルトキャップＡ	12+1
	ボルトキャップＢ	18+1
	戸車調節用ボルト	2

梱包番号 F1-3612

品番	部品名	数
1	土台後	1
2	土台前	1
3	土台右	1
4	土台左	1
5	根太	1

梱包番号 F1-5314

品番	部品名	数
6	床パネルＭ	2
7	床パネルＹ	1

梱包番号 F1-5215

品番	部品名	数
6	床パネルＭ	2

梱包番号 F1-0120

品番	部品名	数
11	柱後左右Ｓ	2
12	柱前右Ｓ	1
13	柱前左Ｓ	1
32	柱カバーＳ	1
41	棚支柱ＡＳ	1
42	棚支柱ＢＳ	1
43	棚支柱Ｃ	2

梱包番号 F1-5030

品番	部品名	数
14	鴨居	1
15	桁後	1
25	鼻隠し前	1
26	鼻隠し後	1

梱包番号 F1-5036

品番	部品名	数
21	妻板右	1
22	妻板左	1

梱包番号 F1-5240

品番	部品名	数
23	母屋中	2

（多雪地型の時）

梱包番号 F9-5240

品番	部品名	数
23	多雪母屋中	2

梱包番号 F1-5245

品番	部品名	数
24	屋根パネル	2

梱包番号 F1-5345

品番	部品名	数
24	屋根パネル	3

梱包番号 F1-0551×３梱包

品番	部品名	数
31	壁パネルＳ	5

梱包番号 F1-5060

品番	部品名	数
33	正面パネルＳ	1
34	扉中Ｓ	1
35	扉前Ｓ	1

梱包番号 F1-0172

品番	部品名	数
47	棚板０１	2
	棚フック	8

梱包番号 F1-0272

品番	部品名	数
48	棚板０２	2
	棚フック	8

ＭＢＷ-４８Ｈ型

※下記の部品のほかに、コンクリートブロック６個、半ブロック４個、セメント１０kg、砂１８l、砂利２４l以上を準備してください。

梱包番号 F1-3610

品番	部品名	数
●	部品箱	1
(A)	水準器	1
(B)	スパナ	1
(C)	ネジ板	60+2
(D)	パッキン付ネジ板	42+2
(E)	ボルト	146+4
(F)	ネジ板Ｂ	1
(G)	アンカープレート	4
(H)	ネジ穴ブッシュ	2
(I)	屋根パッキン	5
(J)	ボルトキャップＡ	12+1
	ボルトキャップＢ	18+1
	戸車調節用ボルト	2

梱包番号 F1-3612

品番	部品名	数
1	土台後	1
2	土台前	1
3	土台右	1
4	土台左	1
5	根太	1

梱包番号 F1-5314

品番	部品名	数
6	床パネルＭ	2
7	床パネルＹ	1

梱包番号 F1-5215

品番	部品名	数
6	床パネルＭ	2

梱包番号 F1-1120

品番	部品名	数
11	柱後左右Ｈ	2
12	柱前右Ｈ	1
13	柱前左Ｈ	1
32	柱カバーＨ	1
41	棚支柱ＡＨ	1

梱包番号 F1-5030

品番	部品名	数
14	鴨居	1
15	桁後	1
25	鼻隠し前	1
26	鼻隠し後	1

梱包番号 F1-5036

品番	部品名	数
21	妻板右	1
22	妻板左	1

梱包番号 F1-5240

品番	部品名	数
23	母屋中	2

（多雪地型の時）

梱包番号 F9-5240

品番	部品名	数
23	多雪母屋中	2

梱包番号 F1-5245

品番	部品名	数
24	屋根パネル	2

梱包番号 F1-5345

品番	部品名	数
24	屋根パネル	3

梱包番号 F1-1351

品番	部品名	数
31	壁パネルＨ	3

梱包番号 F1-1451×３梱包

品番	部品名	数
31	壁パネルＨ	4

梱包番号 F1-5160

品番	部品名	数
33	正面パネルＨ	1
34	扉中Ｈ	1
35	扉前Ｈ	1

梱包番号 F9-0675

品番	部品名	数
42	棚支柱ＢＨ	1
43	棚支柱ＣＷ	2
45	棚支柱ＵＨ	2

梱包番号 F1-5172

品番	部品名	数
57	棚板５１	2
	棚フック	8

梱包番号 F1-5272

品番	部品名	数
58	棚板５２	2
	棚フック	8

組立順序のご説明	組み立てにあたって、部品の共通性・互換性を持たせるために、取り付け穴が余分にあけてあります。相手に穴のない所はボルト締めの必要はありません。各取り付け穴は、組み立てを容易にするために余裕を持たせてあります。片寄った締め方をすると、部品が入らなかったり穴が合わない場合がありますので、この場合はネジをゆるめ調整してください。

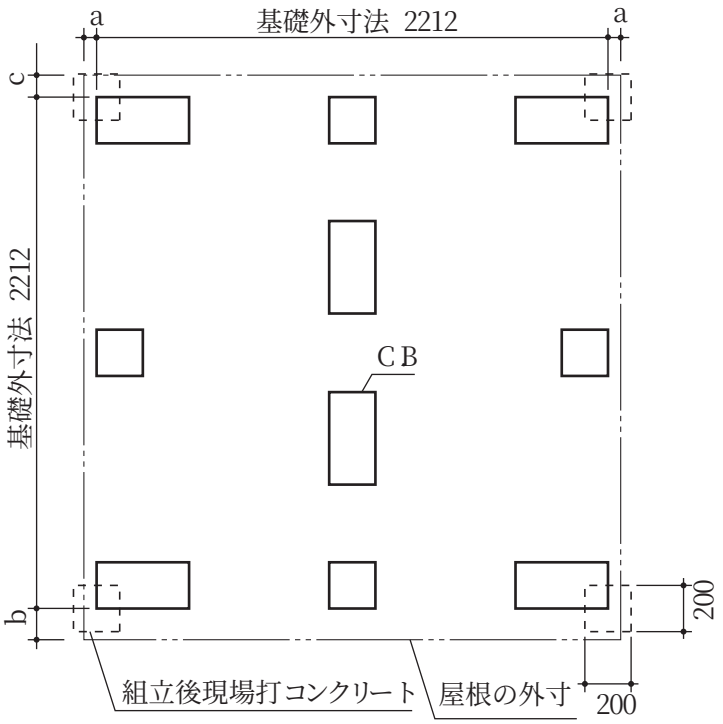
1．基礎施工

地ならし、地固めを充分にしてコンクリートブロックを基礎伏図に従い、水準器を使って水平に設置します。
※基礎が水平に置かれていない場合には、戸当たりが悪くなったり、雨もり等の原因になることがあります。

安全確保のため、転倒防止工事には充分注意してください。

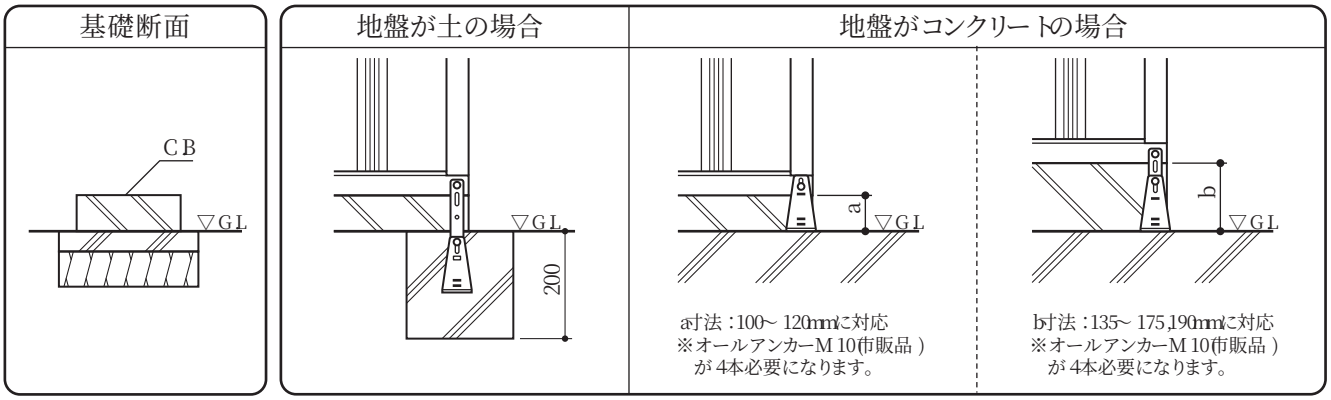
■基礎施工図（単位：mm）

※a，bは屋根の出幅です。
a＝55，b＝135，c＝95



MBW-48
MBW-48H

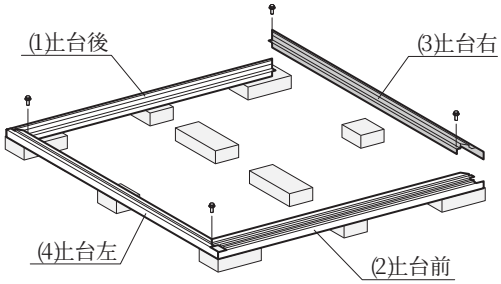
■基礎詳細図（単位：mm）

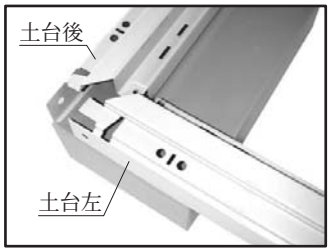


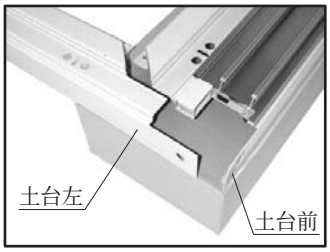
2土台枠組

(1)土台後、(2)土台前をブロックの上に置き、(3)土台右(4)土台左をボルトで取り付けます。

ボルト＝４本

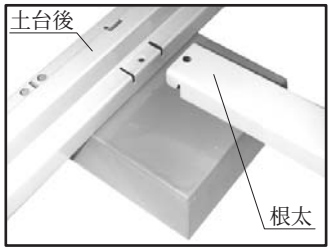


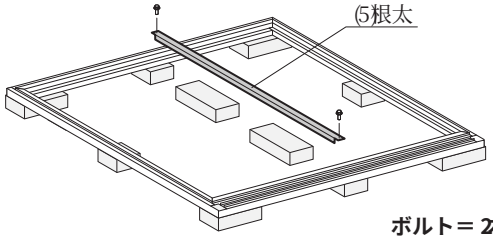




3根太取付

(5)根太のベロを土台前後の角穴に入れ、ボルトで取り付けます。
※土台の水平をもう1度確認してください。

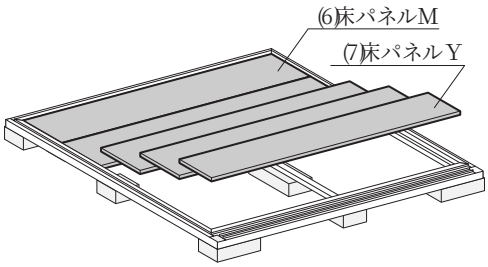




ボルト＝２本

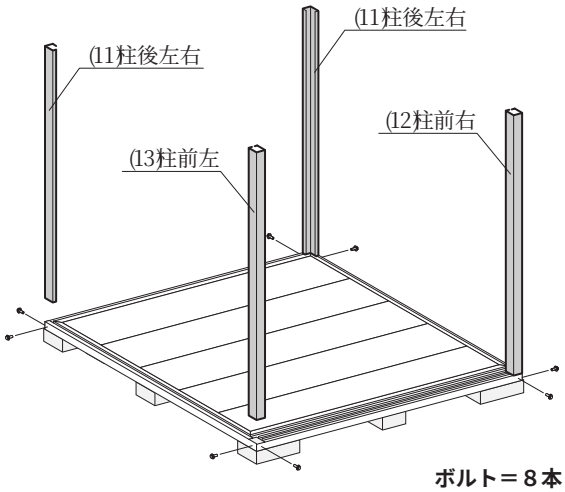
4床パネル取付

(6)床パネルM、(7)床パネルＹをはめ込みます。

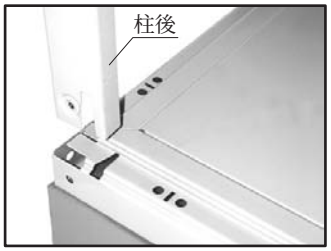


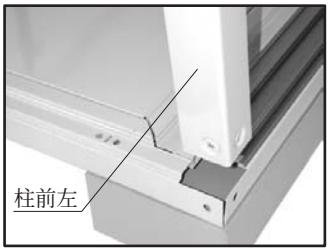
5柱取付

(11)柱後左右、(12)柱前右、(13)柱前左をそれぞれ土台の4隅に差し込み、ボルトで取り付けます。



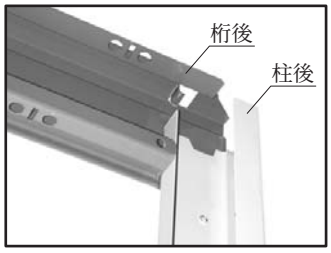
ボルト＝８本

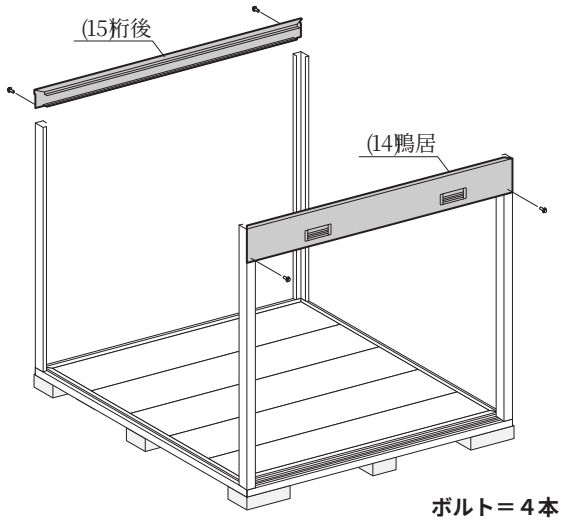




6鴨居・桁後取付

(14)鴨居、(15)桁後のベロを柱に引っかけ、ボルトで取り付けます。

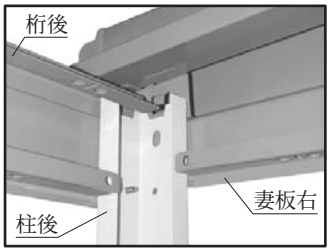


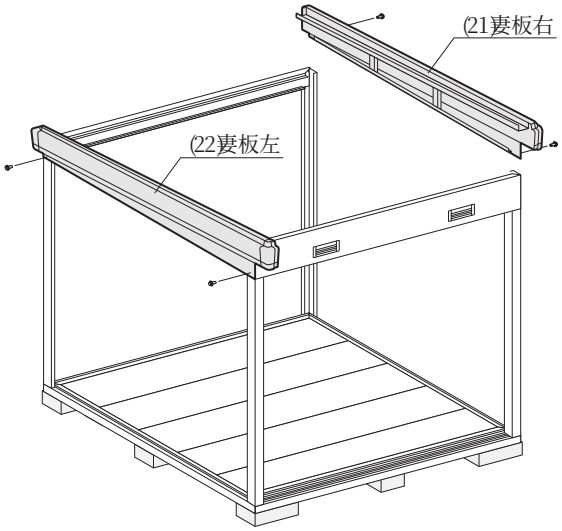


ボルト＝４本

7妻板左右取付

(21)妻板右、(22)妻板左のベロを「6鴨居・桁後取付」と同じ要領で柱に引っかけ、ボルトで取り付けます。

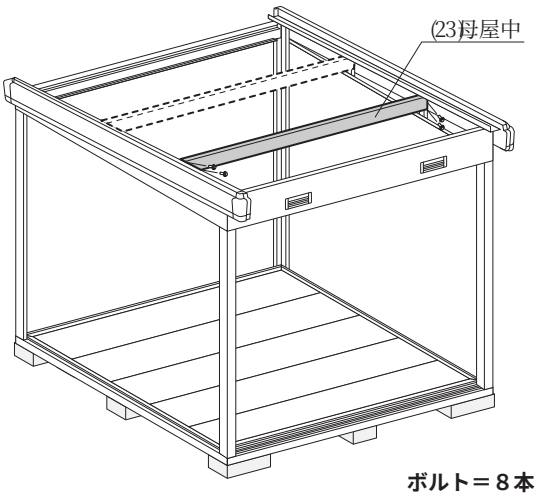




ボルト＝４本

8母屋中取付

(23)母屋中1本を妻板左右の母屋受けにはめ込み、ボルトで取り付けます。残りの１本は「10屋根パネル取付」後セットすると安全かつ容易に組み立てられます。

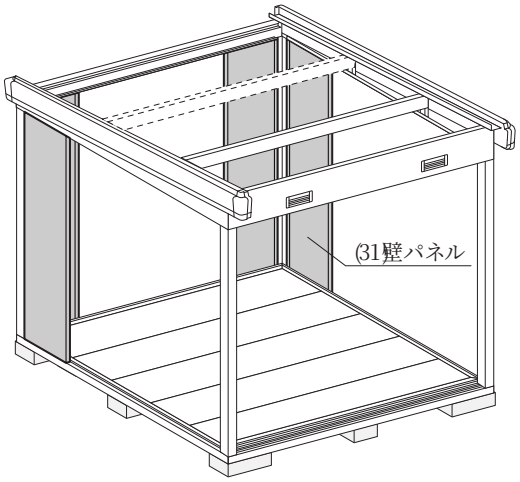


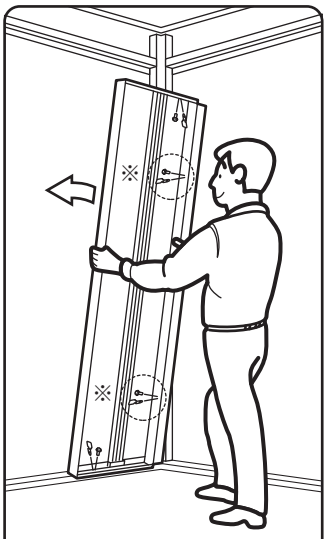
ボルト＝８本

9壁パネル取付

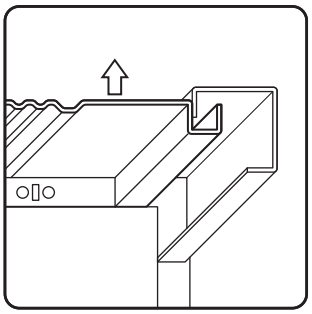
(31)壁パネル4枚を下図のように内側から柱後にボルトとネジ板で取り付けます。（ゆがみや倒れの防止になります。）

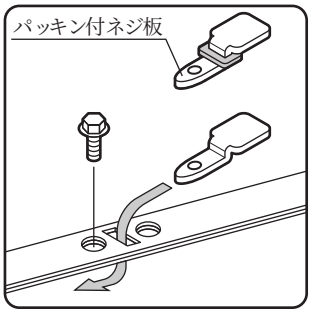
※下図の壁パネルの位置に別売のガラス窓等が付く場合は、壁パネルの取付は不要です。





※注意
壁パネルの縦方向には、パッキン付ネジ板を使ってください。

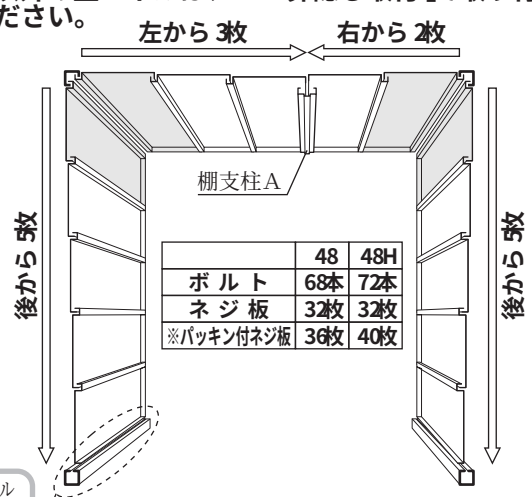




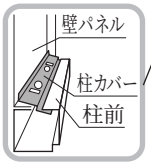
●壁パネル組合せ図

壁パネルの組立順が違いますと、棚板が付かない・雨もりがする等の原因となります。

※ ▭部以外の壁パネルは、「11鼻隠し取付」で取り付けてください。



	48	48H
ボルト	68本	72本
ネジ板	32枚	32枚
※パッキン付ネジ板	36枚	40枚

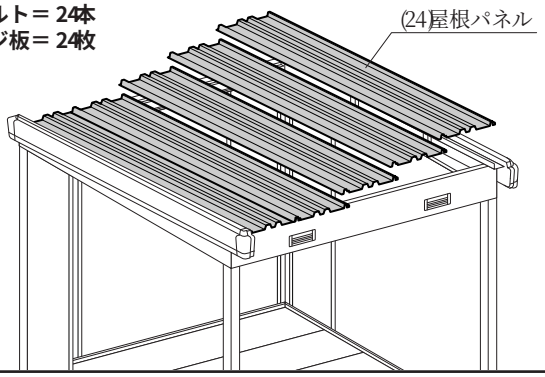


【注意】
柱カバーは、「15正面パネル取付」を参考に正面パネルの取り付かない柱前に壁パネルと一緒に取り付けてください。

10 屋根パネル取付

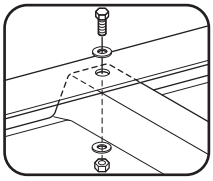
(24)屋根パネルを妻板左からつなぎ目をかみ合せてのせ、鴨居・桁後にボルトとネジ板で取り付けます。次に母屋中をセットし、同じ要領で取り付けます。

ボルト＝24本
ネジ板＝24枚

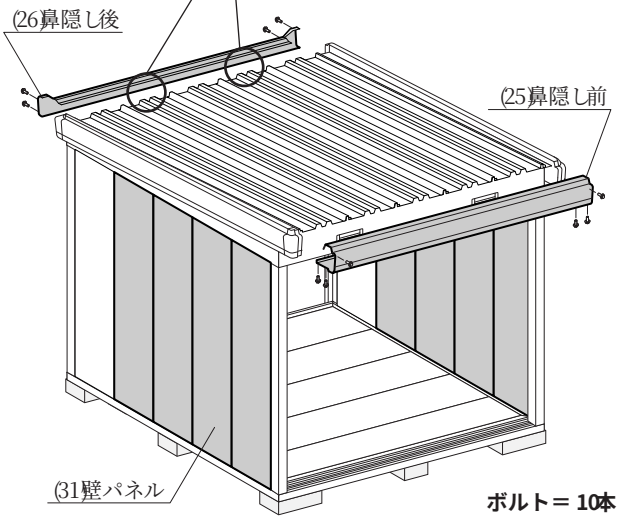


11 鼻隠し取付

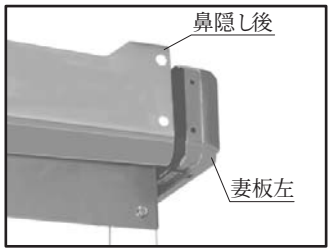
(25)鼻隠し前、(26)鼻隠し後を屋根にかぶせてボルトで取り付けます。次に(31)壁パネルを「9 壁パネル取付」の●壁パネル組合せ図に従って全て取り付けます。
※別売の雨といやガラス窓は、ここで取り付けます。

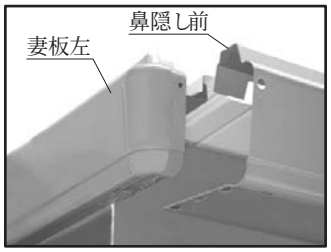


○印の屋根パネル後部と鼻隠し後を左図のようにステンレスのボルトとナットで2ヶ所固定してください。



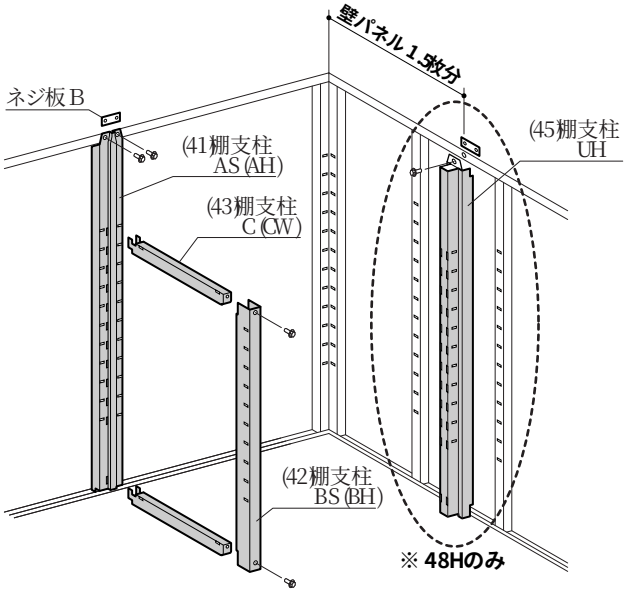
ボルト＝10本





12 棚支柱取付

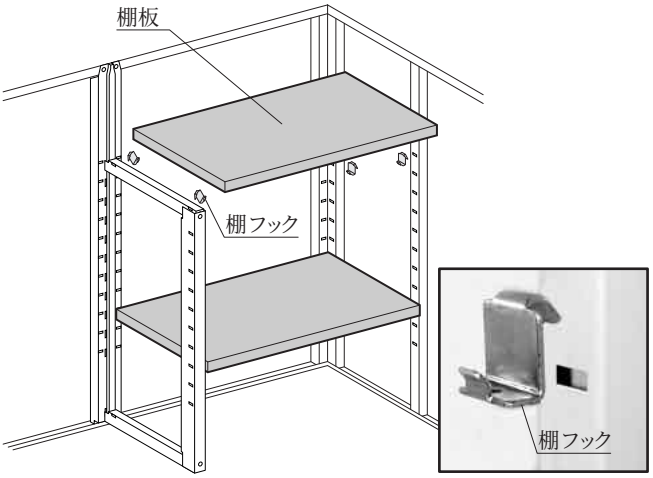
① (41)棚支柱Ａの下部を土台後の角穴に差し込み、ボルトとネジ板Ｂで取り付けます。
② (43)棚支柱ＣをＡの上下の角穴に差し込みます。
③ (42)棚支柱ＢをＣとボルトで取り付けます。
※ 48Hの時は、両側面の壁パネル1.5枚分の所に(45)棚支柱UHをボルトとネジ板Ｂで取り付けます。



ボルト＝４本（※48H＝６本）
ネジ板Ｂ＝１枚（※48H＝３枚）

13 棚板取付

棚板の梱包に入っている棚フックを棚支柱と壁パネルに引っかけ、棚板を取り付けます。
※棚フックは、棚板の４隅に取り付けてください。



14 屋根パッキン取付

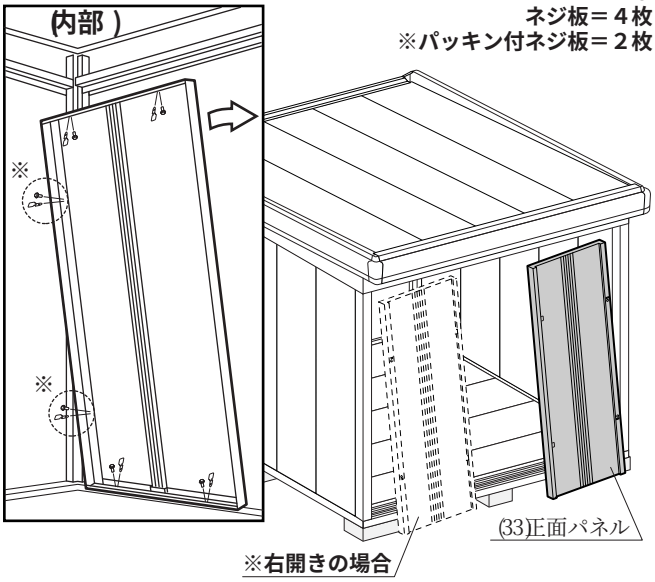
ホコリの侵入を防ぐため、屋根パッキンを桁後と屋根パネルのつなぎ目に押し込みます。
※妻板右の所は、スキマが小さいので不要です。

屋根パッキン＝５個

15 正面パネル取付

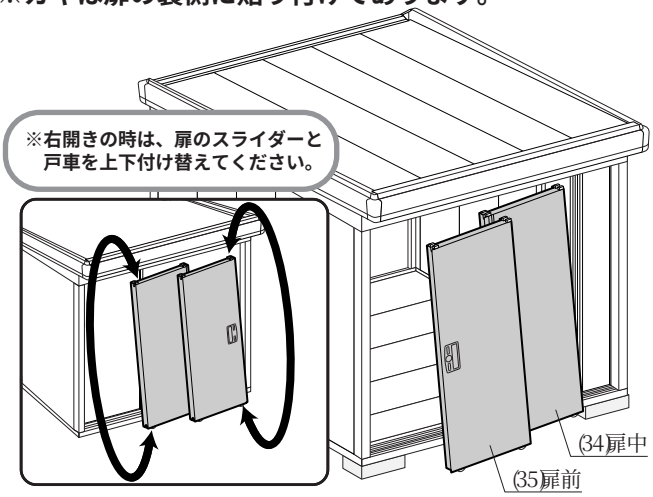
左開き（標準）の場合は、(33)正面パネルを柱前右に内側からはめ込み、ボルトとネジ板で取り付けます。
※扉を右開きにする場合は、正面パネルを柱前左に取り付けてください。

ボルト＝６本
ネジ板＝４枚
※パッキン付ネジ板＝２枚



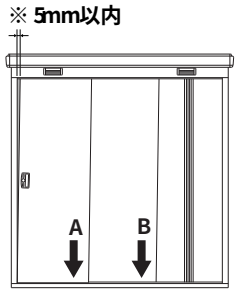
16 扉取付

(34)扉中、(35)扉前の順に上部スライダーを鴨居のレールに差し込み、下部の戸車を土台のレールにのせて扉をはめ込みます。
※カギは扉の裏側に貼り付けてあります。



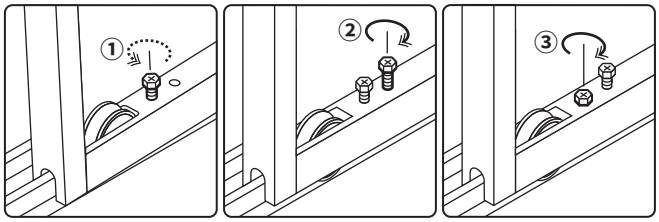
★戸当たり調整

扉を閉めて下図のようにスキマが出来た場合は、A･B部の戸車を①②③の手順で調整してください。



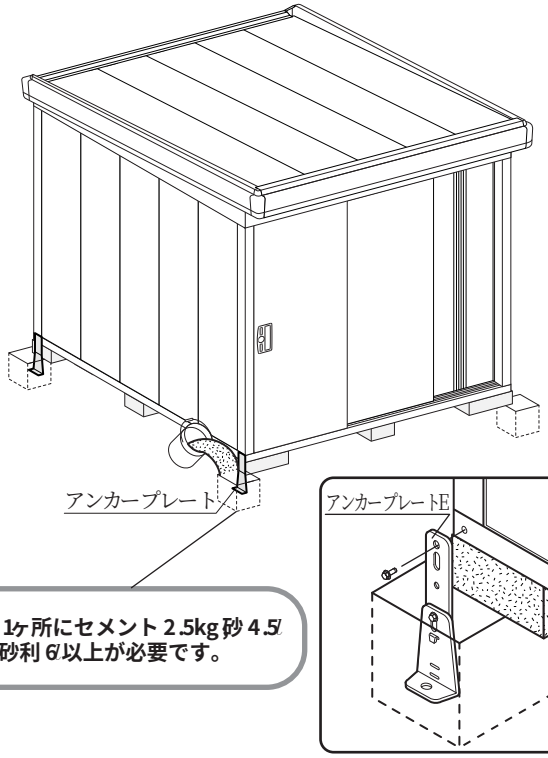
①戸車を固定しているボルトを４～５回転ゆるめる。
②部品箱内の戸車調整用のボルトで戸当たりを調整する。
③最初にゆるめたボルトを締め付ける。

※ 5mm以上のスキマや上記の要領で調整できない時は、土台の水平を直してください。



17 アンカー取付

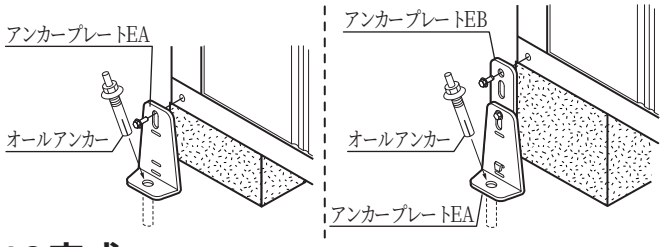
A）地盤が土の場合は、４隅に２０cm角の穴を掘り、アンカープレートを取り付け、コンクリートを打ち込みます。



B）地盤がコンクリートの場合は、アンカープレートを取り付け、Ｍ１０オールアンカー（市販品）で固定します。

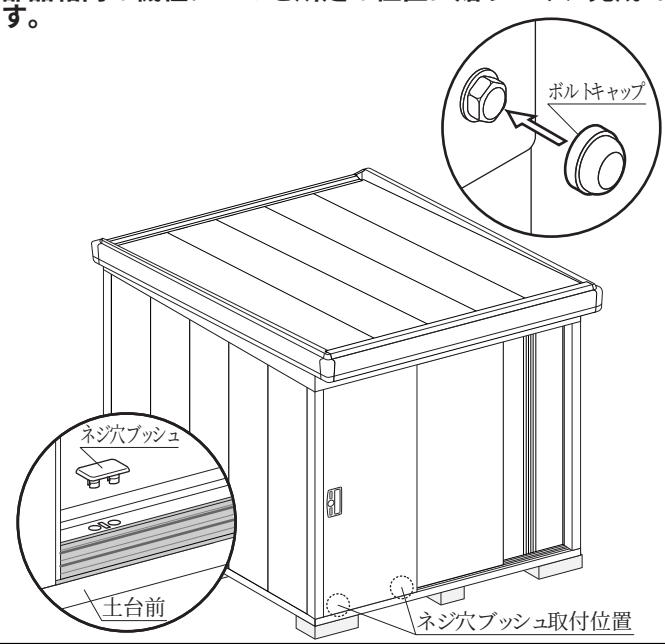
■基礎高 100～120mmの場合
（EBをはずし、EAだけを使います。）

■基礎高 135～175、190mmの場合
（※ EA、EBの組替えで長さを調節してください。）



18 完成

外に出ているボルトにボルトキャップを取り付け、土台前のネジ穴２ヶ所にネジ穴ブッシュを取り付けます。
部品箱内の機種シールを所定の位置に貼りつけ、完成です。



■ご使用にあたっての注意

1．この物置は、下記の強度基準で製作されています。
この基準をこえる条件でのご使用は避けてください。

(1)床荷重 ―――――― 600kg/㎡
(2)棚荷重 ―――――― 250kg/㎡
(3)壁・扉の強さ ―――――― 50kg/㎡
(4)積雪荷重 一般型 ―― 120kg/㎡
多雪地型 ―― 315kg/㎡

2．熱や湿気に弱いものの収納には特にご注意ください。
また、衣料品などはビニール袋などに入れ、密封のうえ収納してください。

3．一般型0.6m、多雪地型1mをこえないように雪下ろしをしてください。
また、建物の屋根から雪が落ちる場所への設置は避けてください。

4．特に風当りの強い場所（高い所・崖上）に設置する場合は、転倒防止に充分注意してください。
物置は強風により、ブロック（基礎）からズレて転倒する恐れがありますので、必ずアンカー工事を施してください。

■転倒防止のために

【1】グラフの説明

物置は設置場所が地盤から高くなると、風圧が大きくなり通常のアンカー工事では転倒する場合があります。高くなればそれに伴ない転倒防止に必要な重量が大きくなる関係を示したのがしたの右のグラフです。

【2】転倒防止に必要な荷重の求め方

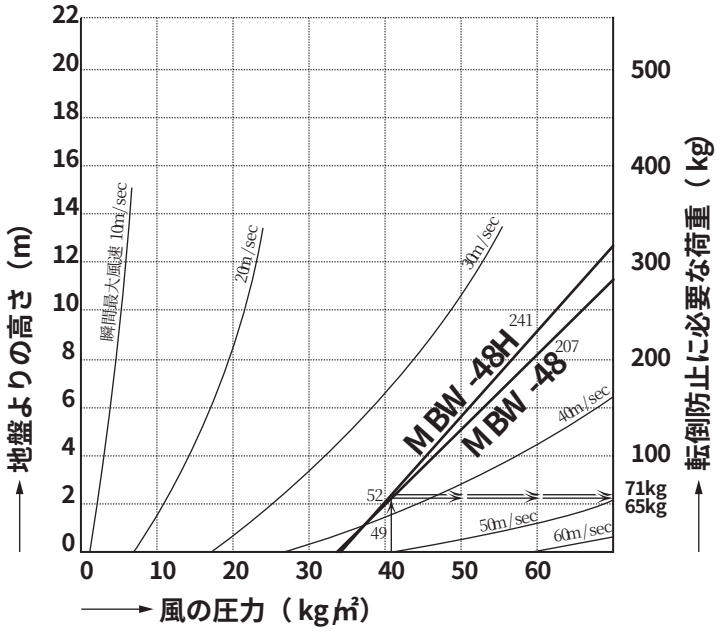
①風速（m/sec）の曲線と高さの線の交点を上に伸ばします。
②太線との交点を右に伸ばすと転倒防止に必要な荷重が求められます。

例）→→線は風速50m/sec、平地0mの時を想定したものです。MBW-48Hの場合、転倒防止に必要な荷重は、71kgになります。

【注意】 物置は強風によりブロックからズレ、転倒の原因になりますから必ずアンカー工事をしてください。

※参考 各地の瞬間最大風速（m/sec）（平成5年 理科年表による）

北海道	札幌：33.6	関東	東京：38.2	近畿	大阪：60.0	四国	高知：54.3
	稚内：39.7		銚子：49.0		潮岬：59.5		室戸：84.5
	釧路：34.5		前橋：40.2		京都：42.1		松山：42.1
東北	秋田：51.4	中部	名古屋：45.7	中国	広島：58.9	九州	福岡：49.3
	山形：32.6		新潟：45.5		下関：45.3		鹿児島：55.6
	宮古：39.1		浜松：42.0		岡山：39.4		大分：39.0

転倒防止に必要な荷重と風速および高さの関係グラフ

このグラフの転倒防止に必要な荷重は、計算上、平地に設置した場合の数値ですので安全確保のために余裕を持たせてください。